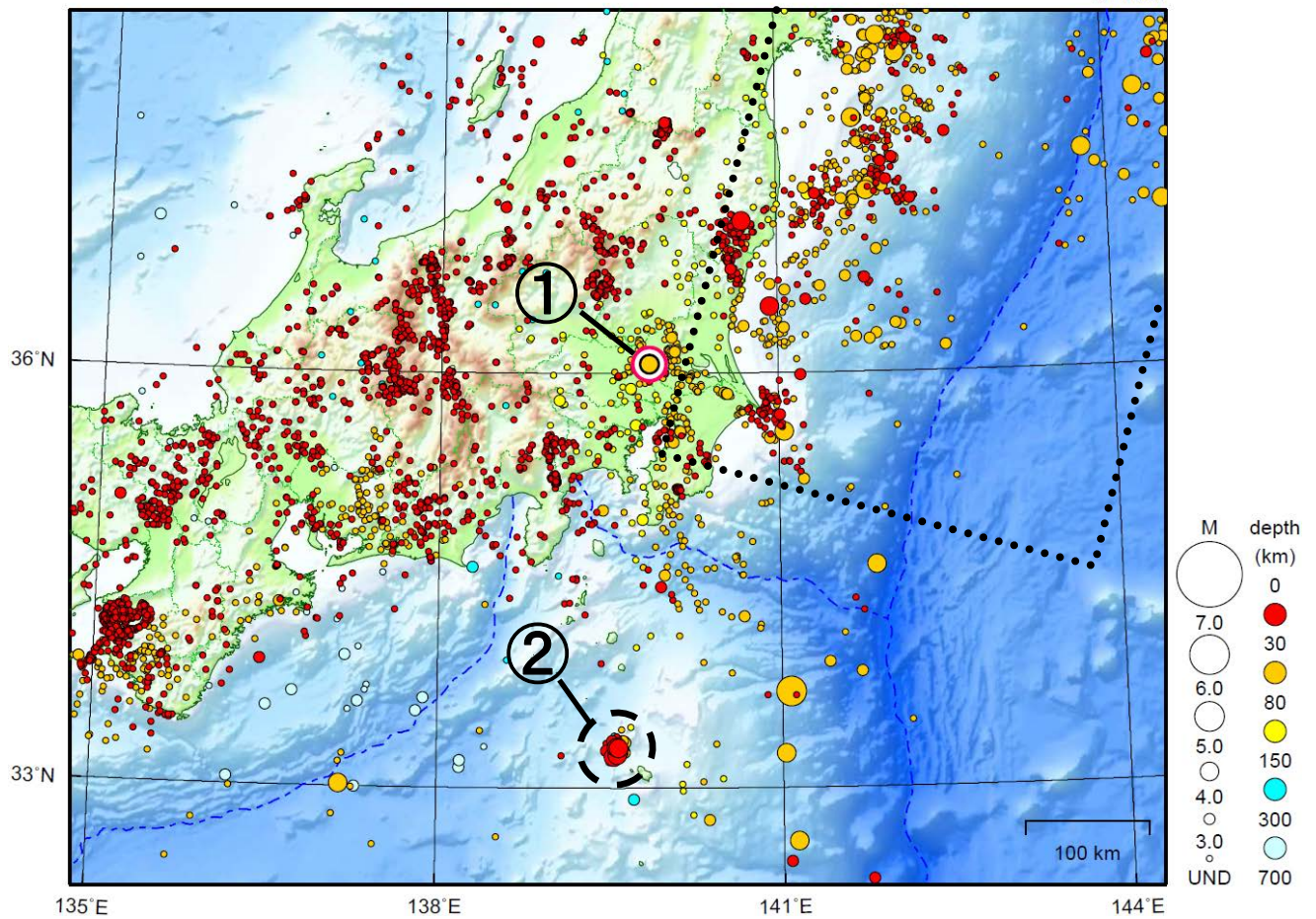


# 関東・中部地方

2015/07/01 00:00 ~ 2015/07/31 24:00

N=4639



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 7 月 10 日に茨城県南部で M4.4 の地震（最大震度 4）が発生した。
- ② 7 月 14 日から 17 日にかけて、八丈島近海で地震活動がやや活発になった。

（上図期間外）

8 月 6 日に茨城県沖で M5.5 の地震（最大震度 4）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は[茨城県北部]である。

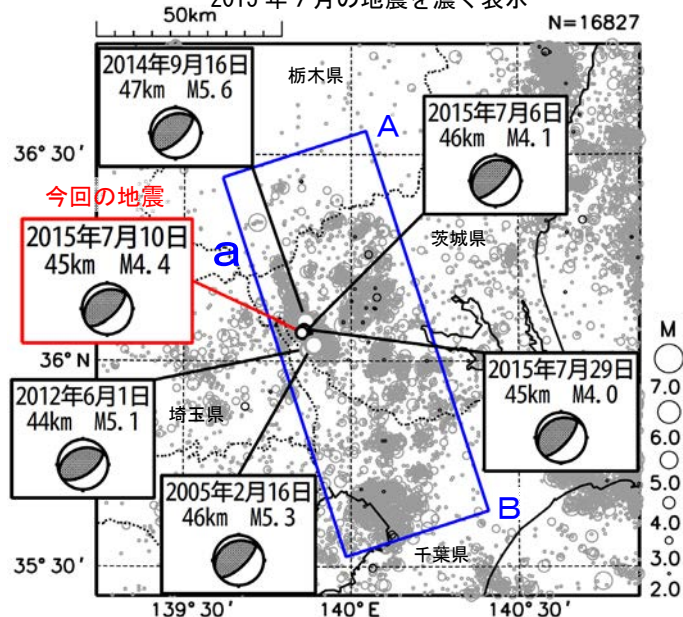
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

## 7月10日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2015年7月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$ )

2015年7月の地震を濃く表示

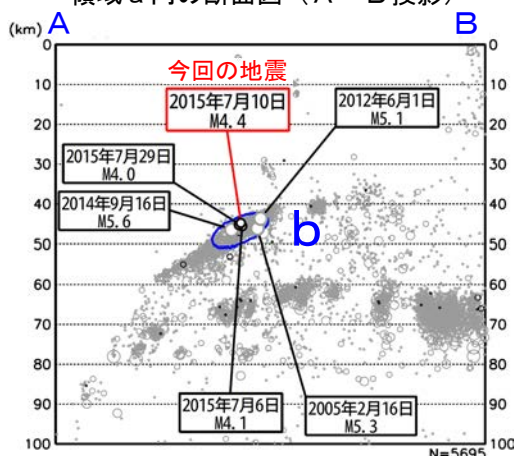


2015年7月10日01時15分に茨城県南部の深さ45kmで $M 4.4$ の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)は、 $M 5$ 程度の地震が時々発生している。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、2014年9月16日には $M 5.6$ の地震(最大震度5弱)が発生している。また、今月6日と29日には、今回の地震とほぼ同じ場所でそれぞれ $M 4.1$ と $M 4.0$ の地震(ともに最大震度3)が発生している。

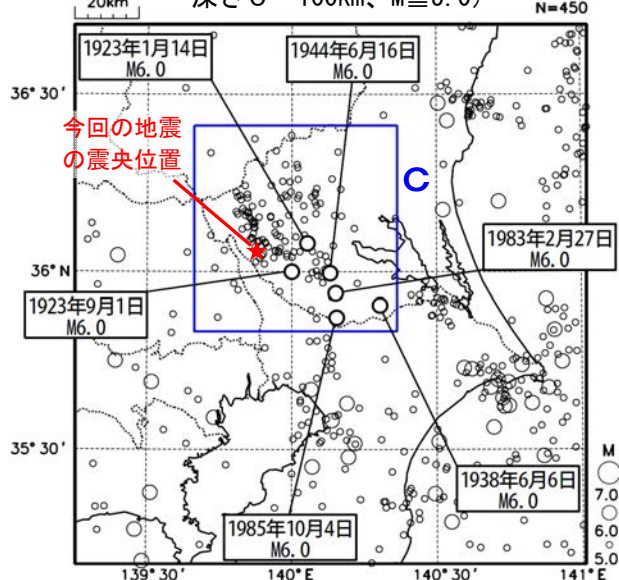
1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、 $M 6$ 程度の地震が時々発生している。1983年2月27日に発生した $M 6.0$ の地震(最大震度4)では、負傷者11人などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図(A-B投影)

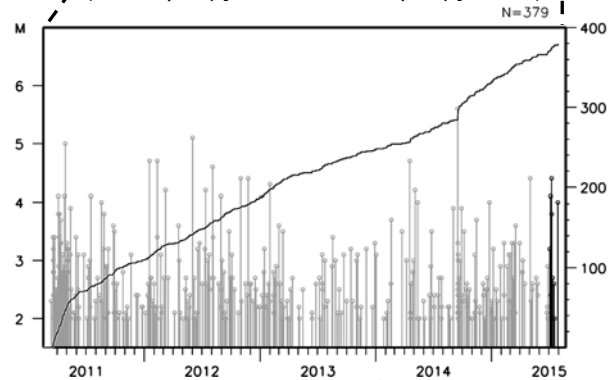
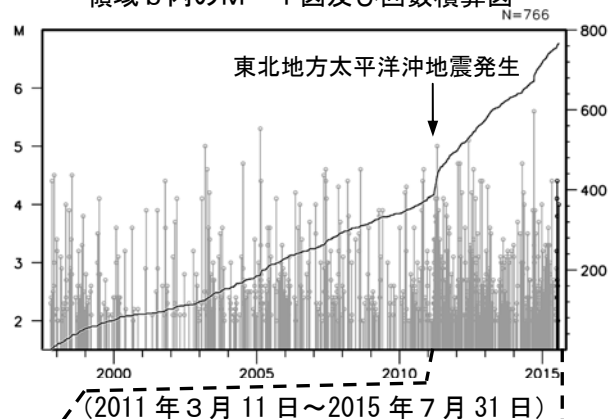


震央分布図

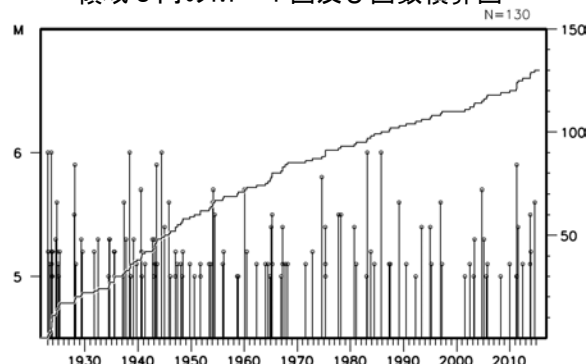
(1923年1月1日～2015年7月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ )



領域b内のM-T図及び回数積算図

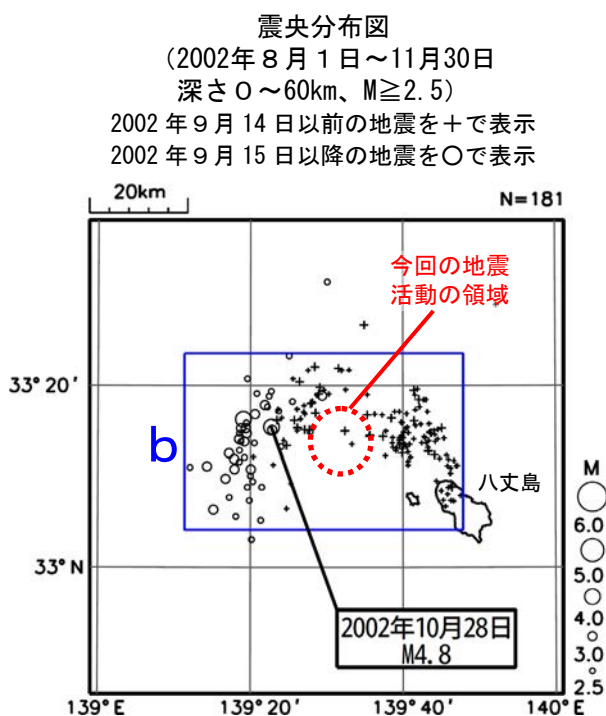
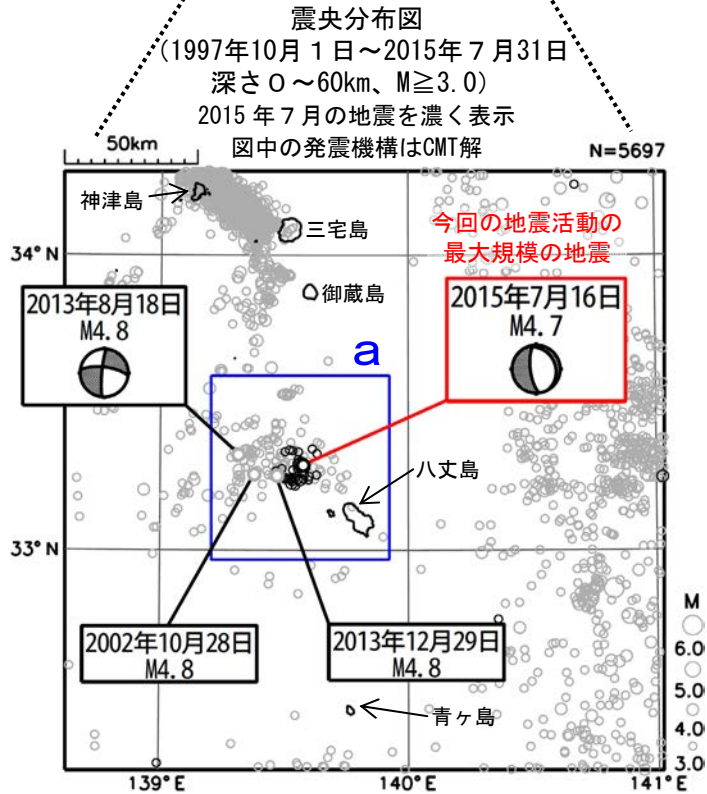
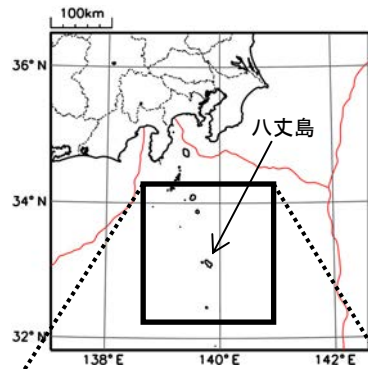


領域c内のM-T図及び回数積算図





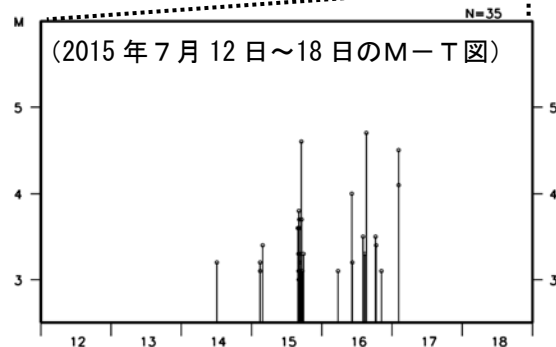
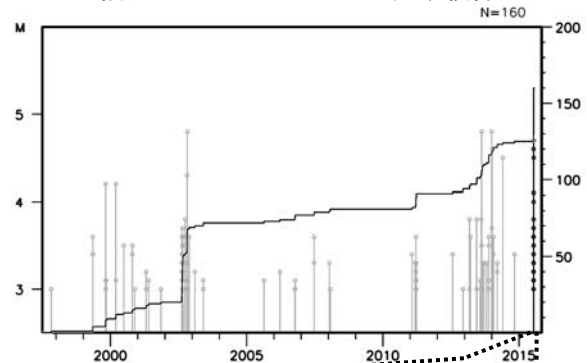
## 7月14日からの八丈島近海の地震活動



2015年7月14日から八丈島近海で地震活動がやや活発になり、震度1以上を観測する地震が17日にかけて11回(最大震度2:3回、最大震度1:8回)発生した。この活動は7月18日以降低調であった。これまでの最大規模の地震は、16日15時13分に発生したM4.7の地震(最大震度2)であった。この地震は、発震機構(CMT解)が東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の活動の震央付近(領域a)では過去に何度かまとまった活動が発生している。2002年8月～11月の活動では、最初に八丈島付近でまとまった活動が発生し、その後活動が西に移動し、全体で震度1以上を観測する地震が36回発生した。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図及び回数積算図

